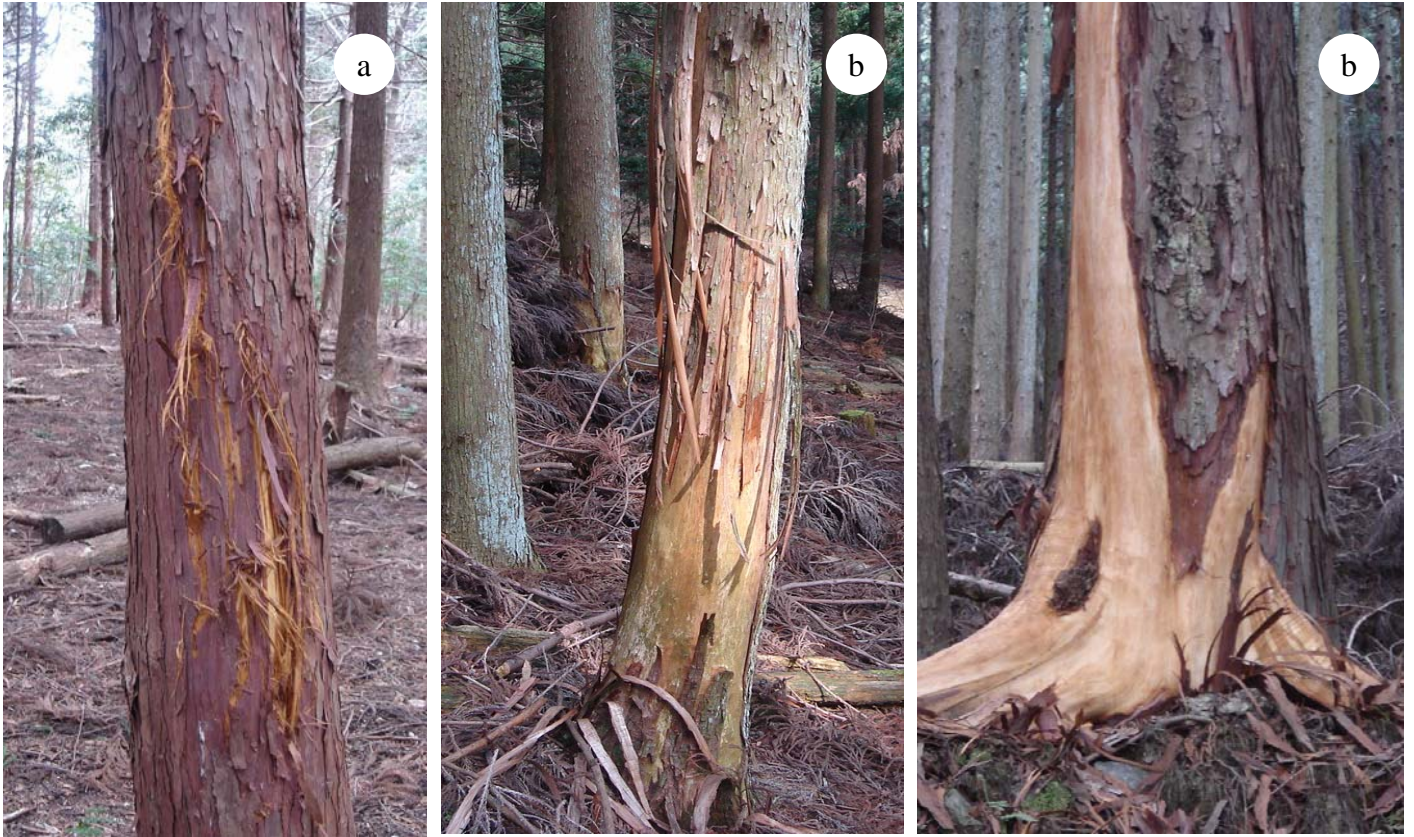


ニホンジカによるスギ・ヒノキの剥皮害

ニホンジカによるスギ・ヒノキの剥皮害が深刻化しています。幼齢木だけでなく、胸高直径50 cmを超える大径木にも被害は発生します。それはノウサギやニホンカモシカにはほとんど見られない被害形態です。ここではその被害の特徴についてご紹介します。

まず、剥皮害は角こすり(角研ぎ)被害と樹皮食害に大別されます。



a, 角こすりされたヒノキ(樹幹が傷つけられているが、食べられた形跡はない); b, 角こすりの後、内樹皮が採食されたスギ; c, 内樹皮が食害されたヒノキ. 根元に外樹皮が散乱しているが内樹皮は食べられている。

幹の全周を剥皮された木はやがて枯死します。また、ほんの一部を剥かれただけでも材内に変色腐朽菌が侵入し、材質が低下します。

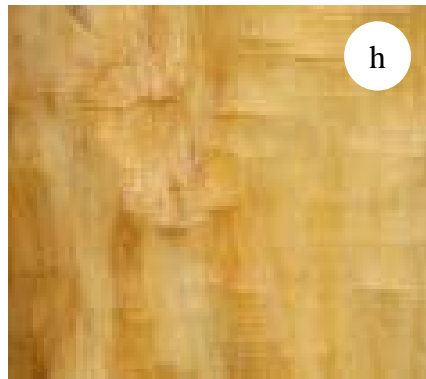


d, 全周を剥皮され、枯死した22年生のスギ; e, ヒノキの木口面に見られる辺材部の腐朽. 剥皮後ただちに腐朽が広がっている; f, 被害を受けて約6年で閉塞したものの、内部の腐朽はその後進展している。

三重県では剥皮害のほとんどは樹皮食害です.ここでは樹皮食害の特徴について紹介します.



樹木の成長期(3~10月頃)
の樹皮食害



三重県内ではほとんどの樹皮食害は3~8月に発生します.この時期の樹皮は剥がれやすく,内樹皮は肥厚し,外樹皮とともに容易に剥がれます(iでは外樹皮が剥かれ内樹皮が食べられているのがわかります).「他に食べるものがないから仕方なく食べる」のではなく,彼らの餌の中でも嗜好性の高い(好きな)メニューとなっているようです.露出した木部の表面は概して平滑でほとんど歯痕は見られません.これまで歯痕のないものは角こすりとする見解もありましたが,それは誤りです.



樹木の成長休止期(11~2月頃)
の樹皮食害



三重県内では成長休止期の被害はまれです.この時期の樹皮はとても剥がれにくく,特に内樹皮は薄い膜状になって木部に強く接着しています.外樹皮をかき落とし,内樹皮を食べるため,剥皮面にはたくさんの歯痕が残ります.このような被害が発生しているところでは深刻な餌不足になっている可能性があります.

このリーフレットに関する問い合わせ先

〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1
TEL: 059-262-5352 FAX: 059-262-0960

三重県林業研究所
E-mail: ringi@pref.mie.jp

©三重県林業研究所